

3学年通信

尾道市立高西中学校
3学年通信第32号
令和2年7月27日

新型コロナウイルス感染症に備えて



毎週金曜日の恒例行事となった感謝の拍手。今週も、1週間無事に過ごすことができたこと、そして安全に日常をおくることができていることに感謝の思いを込めた拍手を行いました。

7月に入り、新型コロナウイルス感染症の罹患者が増え、広島県でも新型コロナウイルス感染症の罹患者が出始めています。毎日感染者が増える報道に、「怖いな」、「心配だな」という思いを抱いている人もたくさん

いることでしょう。じわじわと増えている新型コロナウイルス感染者。もうすぐそこまで「感染の危険」が近づいてきているといっても過言ではないかもしれません。

6月の学校再開以来、「高西版新しい生活様式」に則り、マスクをつけ、手洗いをこまめに行う生活を続けてきたみなさんですが、だんだんとその生活に慣れ、ソーシャルディスタンスを始め、意識もだんだんと薄れつつあります。

確かに、世間に目を向けても、新型コロナウイルス感染症の罹患者は、今回は若者が多いためか重篤者の報道がなされていません。加えて身近に罹患者がいないこともあって、以前のような「危機感」を抱いている人は少なくなっているような気がします。「新型コロナウイルス」のある生活にも慣れてしまった人間の適応力も「危機感」が薄れた一因かもしれません。しかし、新型コロナウイルス感染症は治療薬がないばかりか、当初は否定されていた空気感染も最近ではあり得ると言われるようになり、また、ウイルスが変化をしてより強い感染力をもつようになった型もあるといわれており、未だ全貌が分からないウイルスです。

幸いなことに高西中には新型コロナウイルスに感染した人はいません。この先もいなければいいなと切に思います。そのためにできることは何でしょうか。気をつけていても感染してしまうことはあるかもしれません。しかし、「予防」することで、そのリスクを低減することはできます。つまり一人一人の新しい生活様式に則った意識ある行動が大切なのです。

自分と大切な人の命を守るため、自分たちにできることは何か、自分たちがすべきことは何か—それらを考えるには、的確な判断力と思いやりの気持ちが必要です。「新型コロナウイルス感染症の第2波は必ず来る」と断言している専門家の方もいます。何もなければそれが一番、でも大丈夫だと言い切れない今は、「そうなるかもしれない」ことを予測した行動が必要だと私は思います。そのために、今一度、自分自身の行動の在り方を「自分と大切な人の命を守る」視点から見直していきましょう。

新型コロナウイルス感染症が蔓延する以前の生活を思うと不自由なことはたくさんある今、一人一人の行動が「少しの我慢を最大限の思いやりで」包まれたものであればいいなと思います。

自分の行動のその先に…

みなさんは、何かをする時、「自分の行動のその先にいる人、あるもの」の存在を考えたことはありますか？



例えば、提出物。期限を守って提出していますか？雑にやっている人はいませんか？提出物が期限を守ってきちんとできない人は「提出物なんて出しときゃいいんじゃない」、「別にやらなくたっていいじゃん。」「何でやらんといけんのん。」という思いをもっているのではないのでしょうか。しかし、「提出物を出す」先には、「出されたものを見る人」がいます。

出すのが遅くなれば見るのも遅くなり、結果、「見た後の行動」も遅くなってしまいます。後に後にどんどん支障をきたしていきます。しかし、「その先」を考えた行動ができれば、余裕がうまれます。

このように、「今の自分の行動」の先には、必ず「何か」があります。自分の行動の先にある「人」や「もの」の存在を意識してみてください。そうすることで、自ずと自らの行動も変わってくると思います。

日常生活を思い浮かべてみてください。自分が「その先の人」になる場合もあることだと思います。今は「その先の人」でなくても、必ず「その先の人」になる場面は、これから生きていく中で必ずあります。新型コロナウイルス感染症対策のことを考えても、そのような意識は大切です。

みんな「自分の行動の先にある人、もの」を意識した行動をとっていきませんか？